

## 第1回 当別町立地適正化計画策定委員会 会議要旨

- 1 日 時 令和元年8月8日(木) 10:00~12:00
- 2 場 所 役場 大会議室
- 3 出席者 黒澤委員長、下段副委員長、且見委員、栄木委員、杉本委員、  
高橋委員、六角委員、宮崎委員、梅本委員
- 4 説明員 江口企画部長、乗木まち再生室長、高田まち再生室主幹、  
菅原まち再生室主幹、西脇まち再生室主任
- 5 傍聴者 1名
- 6 会議要旨  
議題 立地適正化計画の策定について

### 【委員】

アンケート調査の回収率が低いと思う。もう少し聞き取り等が必要なのではないか。

### 【事務局】

町で実施した他のアンケートの回収率を基に調査を実施しており、回収率は想定範囲内であると考えている。また、今後ワークショップ等において意見聴取をしていきたい。

### 【委員】

人口推移の高齢者割合について、100歳の方が4万人を超えているなかで、65歳以上が高齢者という見方ではなく健康寿命で考えた方がよいのではないか。

### 【委員】

高齢者について、現在と10年後の感覚は違い、今が一番元気な高齢者が多いと思われる。今後、高齢者が増えるが本当に支援が必要な高齢者も増える可能性もある。

### 【委員】

以前は老人クラブに60代で入る方が多かったが、現在は60代は少なく70代が多い状況となっている。中期高齢者や後期高齢者の年齢の引き上げについて徐々に議論されてきている。

介護サービスを受ける人が少なくなるように健康寿命を延ばしていく施策も展開されつつあるなかで、健康な高齢者には社会活動や就業も含めて頑張ってもらって世の中になってきている。健康寿命を一律データ化するのは難しいと思う。

### 【事務局】

健康寿命という定義は難しいと思われるが、医療費分布等の色々な指標により見方が変わってくると思うので検討させていただきたい。

### 【委員】

20年計画なので、5年ごとに見直し等、時代に合わせていければと思う。  
地域説明会とワークショップの開催時期はいつごろか。また、説明会の時に関連計画との関係性をわかりやすく説明したらよいと思う。

**【事務局】**

地域説明会は原案作成前の段階で開催したいと考えている。ワークショップは10月頃の開催を予定している。

**【委員長】**

関連計画については各計画で一つの課題について違ったスタンスがあると思うのでそれぞれ整理したほうがよいと思う。20年先のことなので今考えていることが通じないこともあると思うので、定期的に評価していくことが必要であると思う。

**【委員】**

20年後は人口が半減するので、その要因を把握しておかないと色々な計画をもっても仕方がない。住民目線で考えていく必要がある。  
また、どの年代をターゲットにするのか、少し漠然としているのでもう少し絞り込んだほうがよいと思う。

**【委員長】**

若い人が集まるのが一番ではあるが、年齢層で絞り込んでいくのも必要だと思う。

**【委員】**

人口は全国的に減り続けるので、人口規模に対してこのまちに住み続けられるための適応策を考える必要がある。  
資料(P18)で、まちづくりの方針については高齢者が増えていくなかで都市構造上の課題として医療、介護施設の整備や、自家用車がなくても暮らしやすい環境づくり等が書いてあり、まちの将来像がイメージできるが、資料(P19)のまちづくりの方針をまとめたものは、それが反映されておらず、どういうことをイメージして、どのような課題があり、どういう方向性で取り組んで行くという話の繋がりが分かりづらいので、これからの議論のなかでストーリーが整理されるとよいと思う。

**【事務局】**

資料のまちづくりの方針について、話の流れが分かるように今後の協議の中で議論が深まった段階で修正していきたい。

**【委員】**

区域誘導の施策だけではなく、例えば子育て世代の町内移住を促進するような施策は計画の中に盛り込むのか。

**【事務局】**

例えば、札幌にない広い宅地を提供することで子育て世帯にきてもらうということも考えられる。次回以降そのような話もさせていただきたい。

**【委員】**

CCRC は、まだ継続しているのか。

【事務局】

継続している。

【委員】

誘導区域の設定について、商店街は空き店舗が多く、住居も一緒になっているため商売はやめたけど店舗に住み続けている。次に商売する人がでてきてくれればいいが歯抜け状態の中で難しいと思う。施設を中心部にもってくるのが、人が来て賑わいに繋がると思う。

【委員長】

現実的にはイメージが湧かない。話としてはこれからになると思う。

【委員】

誘導区域に誘導しますというだけではなく、再開発、街路事業等の手法までは計画の中に盛り込んだほうがいいのか。

【委員】

町内でもカフェの開業が増えて人が集える場所になっており、このようなスモールビジネス後押しするような施策を計画の中に盛り込んでいくと都市機能誘導区域の将来像を描きやすいと思う。

【委員】

農家も高齢化になっており、冬期間の安否確認は難しいので、例えば、高齢者が駅前に住めるような町営住宅等、高齢者と若者の二つに分けて考えていかないといけないのではないか。そのようなことができれば除雪の負担も減っていくのではないか。

【委員】

20年後においても人口減少は避けられないので、修正しながらもこの計画は指針としていくべきであると思う。

【委員】

MaaS というインターネットで目的地までの移動経路を簡単に検索でき、支払いもできる世の中を作っていこうという取組がある。

バス、電車、タクシー等交通全体が一定料金使い放題等になればみんな公共交通を使うのではないかな。

公共交通が町民にも使いやすいような仕組みづくりを立地適正化計画にも位置付けてほしい。

【委員】

これからますます公共交通は重要になってくると思う。車社会なので公共交通が乗りやすい環境づくりが必要。人が中心部に集まってくれば、運行のロスが減る。

【委員】

高齢者はインターネットを使えない方が多く。これから近代化していけばおそらく高

齢者は使えないなどの問題がでてくる。

**【委員】**

今、色々なカードで決済できるようになっているが、町で高齢者でも使える電子マネー等ができればいいと思う。

**【委員長】**

住みやすさというものに、そういうことは必要だと思う。

**【委員】**

当別町では森林はエネルギーとして方向づけされており、森林面積は大きいですが、平成に入る前ぐらいには山林が開発され、伐採が多かった。開発目的の山林が荒れてしまい回復も遅れているのが現状である。

**【委員長】**

まちづくりの方針で本町と太美地区を中心として都市機能を集約することについてはご異存はないと思うが、先ほどの意見にあったが、方針の中で年代別に関与するような政策を考えてもいいのではないかと。次回以降それについての話をしていければと思う。都市機能の集約についてはこの方針でよいと思うが、最後に意見はないか。

**【委員】**

誘導区域の設定方針について、次回の話になると思うが、幸町の区画整理した箇所は居住誘導区域に成り得るエリアだと思う。

また、西当別中学校の北側と道路挟んで向かい側について、開発行為をしたが、住宅が張り付いていない場所があるので、居住誘導区域に入れてはどうか。

**【事務局】**

資料にある区域はあくまでイメージ図となっており、次回委員会で区域設定案をお示ししたいと考えている。

なお、西当別中学校付近については、その箇所を居住誘導区域に入れると用途地域と同じ区域になるため、立地適正化計画の制度上難しい。次回以降、協議したい。

( 以 上 )